

先生や友だちの励ましを受けて、 いろいろなことに取り組もうとする子

石 脇 紀 美 子

はじめに

言語障害と弱視を合わせもつK子は、何をすることも尻ごみをし、いつも人目を気にしながら行動している。ちょっと失敗をしたり、友だちが注意をしたりすると泣き叫び外にとび出してしまうことがある。このようなK子に、少しの励ましや援助を受ければ我慢したり、自分で立ち直れたり、いろいろなことに進んで取り組めたりするなど、自信を持った行動のできる子をめざして指導を行ってきた。その事例について、遊びの労働を中心とした二つの生活単元学習と家庭との連携の場を中心に述べてみたい。

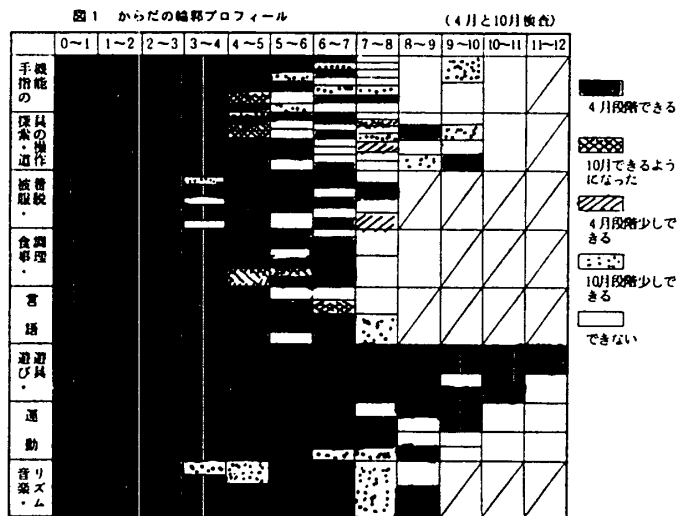
1. 対象児のプロフィール

(1) 生育歴

- S49.12.5生 14才10ヶ月 女子 第2子(姉)
- 未熟児で1ヶ月保育器に入る • 3才児検診で遅れを指摘され、その後知恵遅れと診断
- 市内S小学校特殊学級を卒業後本校中学部に入学。小学校時代4年間、ことばの教室に通う。

(2) 実 態

- かなりの構音障害で初めての人にはほとんど聞きとれない。語い年齢5才2ヶ月。
オハヨー→オアヨー、リンゴ→インゴ
バス→ハス、ガッコウ→ハッコウ等
- 視力が弱く眼鏡を使用。矯正視力0.3
- 筋緊張が強く、全体的に動きにぎこちなさが見られる。円背で常に前傾姿勢をとっている。
- からだの輪郭表では、右図のようになり、
遊具の使用や遊び等体を大きく動かすことは得意とするが、手指の機能や道具の操作等は苦手。
- 昨年の抽出養訓で力をつけて、腕の筋力が強い。力仕事を得意とする。



(3) 行動特性

- 機嫌のいい時は素直でにこやかであるが、少しでも気に入らないことや思い通りにならないことがあると所かまわず座り込み、大声で泣き出す。
- はじめてのこと、不慣れなことにはかなりの抵抗を示し、なかなか取り組めない。
- 尋ねられたり、発表したりする場に出会うと一歩後退して口を閉じてしまう。
- 手先を使う細かい作業は不得手で机上学習をあまり好まない。

2. 指導の方針と方法

K子が常に人目を気にしながら行動したり、些細なことで座り込んだり、また発表の場でうつむき加減になるという態度は言語障害からくるコンプレックスが大きな原因と考えられる。

昨年度はK子の指導にあたって、直接言語指導と取り組むよりも、筋緊張の緩和や姿勢の矯正を行うことによって、からだに自信を持たせることが肝要だと考え、体力づくり、抽出養訓等で個別指導を中心に行ってきた。その結果、少しずつではあるが、体育の時間や遊びの中で生き生きとした積極的な姿を見ることができるようになった。

そこで今年度は、昨年度と同じように直接言語面には触れないで、K子の自信のあること、得意とする面をさらに伸ばしていくことがよりK子を成長させていくことになると考えた。右図の津守式発達診断テストの結果、K子は全体的にみて5才前後の発達段階にあると思われる。この時期は自制心が少しずつ形成されると同時に「～みたいになりたい、ほめられたい、そのためにはがんばろう」という自己形成の芽生えの時期でもある。そこで、日常生活での指導はもちろんのこと生活単元学習と家庭との連携において次の点に重点をおいて指導をしていこうと考えた。

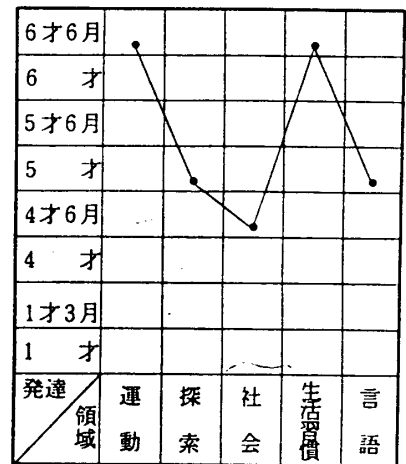


図2 津守式乳幼児発達診断(H.1.5)

- K子の得意とする力仕事や、体全体を使う活動の場を学習の中に多く設け、その自信を苦手な場面での頑張りにつなげていく。
- 援助やはげましを与えて、できる体験をふやしていく。
- K子がしたこと、行動したことはどんなことでも一応認め、できるだけ賞賛を与える。


3. 指導の実際

(1) 生活単元学習


本年度、中学部では「遊び的労働を重視した生活単元学習」に取り組んでいる。これは、K子の得意とする力を要する作業学習や体全体を大きく動かす運動が比較的多く含まれる。そこでこの生活単元学習の場をK子を育てる大切な場にしようと考えた。その様子は以下のようなものである。

○ 野外炊飯

活動内容	様子	手だて	その後の様子
かまど作り	<ul style="list-style-type: none"> • かまど作りに使用するブロックを持ち上げようとするが重くて自由に出来ない。「できん」と言って立ったままである。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「K子さんが持ってくれんと作れない。がんばろう」と励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> • 腰をかかめてやつのことで持ち上げる。調子づいて3枚も運ぶことができた。
薪運び	<ul style="list-style-type: none"> • 人は働いているが、何をしたいのかかわからないよう 	<ul style="list-style-type: none"> • 「M子さんと一緒に運んで 	<ul style="list-style-type: none"> • M子の後ろをついていき何回も

	すでウロウロしている。	きなさい。」と指示をする。 M子もK子を呼ぶ	薪を運ぶ。重いものは転がして持っていこうとする。
イスづくり	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時よりなぜかすねている。話はわざと聞かない、注意をすると「作らん」と言ってさらにすねる。 のこぎりを引くが、なかなか切れない。 	 <ul style="list-style-type: none"> U先生がとなりに近づき、「一緒につくろう」と声かけをする。 手を添えて切る。 	<ul style="list-style-type: none"> 気分をとりもどしてマジックを持って木に線をひきはじめる。笑顔がたくさん見られる。 先生と一緒に一片を切ると、要領がわかったのかかなり力を入れて引く。なかなか切れないが、時間の終わりまでこつこつと頑張る。

○臨海学校

活動内容	様 子	手 だ て	そ の 後 の 様 子
砂場づくり	<ul style="list-style-type: none"> バケツで何回か砂を運ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「力持ちだね」「すごい」とみんなではめる。 「やっぱりK子がしてくれないと困るなあ」と声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂の量を多くして何回も運ぶ。途中で一輪車にかえるが休む間もないほど一生懸命運ぶ。 休憩時は一番はじめに外に出て指示がなくても仕事に取りかかる。
川づくり	<ul style="list-style-type: none"> 指示されても何もしないで一人ポツンと砂遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> M子に丸太を運びながら、「K子さん手伝って」と言わせる。 S子にも「こっちにおいでよ」と声かけをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの声かけに対してゆっくりと顔を上げ近づいてくる。 M子と一緒に丸太を転がしたりかかえたりしていたが、とうとう一人でかかえて持ってくる。
汽車を走らそう	<ul style="list-style-type: none"> S子に砂をかけられて少しこだわりを持つ。泣きそう。 N夫の頭をたたいた、お返しにスコップでたたかれる。泣きだして砂場から出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「だいじょうぶ」「がんばって作ろう」と声かけ。 「最後まで頑張らないと汽車が走らない。」「あとでN夫に注意しておくから」と声かけをして励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> 気をとり直して作業を続ける。 大きな声で泣くこともなくすんなりと砂場に返ってきた。トンネル掘りの仕事の続きを黙々と始める。こんな立ち直りははじめてだった。

二つの単元を実践している間、学習中も朝の会や休憩時でもすねて座り込んだり、大きな声で泣いて廊下にとび出すということがほとんど見られなかった。また、のこぎりや金鋸、一輪車の使用などを経験することにより、今までできなかったののできるものが多くなり、ほめられて自信を持った行動がふえてきたと思える。更に、二学期の運動会単元ではK子の得意とする体を動かすことが中心であったためか、次のような姿が見られた。

— 生活単元学習「運動会」におけるK子の様子 —

- 9/18 はちまきのアイロン掛けを嫌がる。すねないでかわりに示す仕事を自分からすすんでした。
- 9/21 同じクラスのH男につねられたが「だいじょうぶ」と言うのがまんして泣きながら作業を続けた。ここまでがまんできた事は今までなかった。
- 9/22 リレー練習ではとてもいい顔をして走る。100メートルは1位になる。「みんな働き者」では途中まで2位だったが一輪車の扱いがうまくて一位になる。

930 校舎の周りを走る持久走は補助なしで一人走れだした。

1065 サーキットの時間に自分の目標を5周と決め、それに向かって一人で黙々と頑張る。

運動会が終わった今、まだまだ机上学習や初めての学習内容では明るい顔を見せないK子であるが、校庭や体育館での学習、何かを作ったり体を動かして進める学習では力いっぱい楽しんで取り組む姿が多く見られるようになった。



(2) 家庭との連携

発達年令が5才前後のK子にはまだまだ家庭の援助が必要である。毎日の生活ノートにはK子の一日の生活の様子を詳しく記録し、学校であったことに母親からも励ましや賞賛を十分にしてもらうようにしている。また、K子から学校の

学校より
今朝のはりきりようといったらすてい。お見せしたかったです。運動会の練習もとてもよくがんばりました。

家庭より
前夜、団地内を一周したからでしょうか。(中略)
今夜も走ります。最近友だちと遊んだことを話します。

様子をできるだけ聞き出して、それをもとに一緒に日記を書くこともお願いしている。そのことは学校での満足感を文字で表わすことによって、より確かなものにする考えた。

～生活ノートより～

また、家庭でもK子の得意とする

ことをさらに伸ばして自信へとつなげるために、お風呂上りの5分間体操(養訓的内容)やマラソン、そしてからだを鍛えると同時に風呂洗いや台所仕事等を常に親子で行うようにしている。家庭でこれらのことをしてきた日のK子はその様子をうれしそうに話してくれる。

4. 考察と今後の課題

人目を気にしながらいつも先生と一緒に行動しようとしていたK子が少しずつ先生から離れ、友だちと一緒に明るい笑顔で行動することが多くなってきた。いつも「甘やかしては？」と思いつつ励ましや援助を与え、K子の今の状態を大切にした指導を大切にしてきた。このことがK子の「できる体験」を多くし、いろいろなことに取り組もうとする意欲や積極的な態度、自信を持った行動を育ててきたように思う。そして、それがK子の一番の障害である言語面での遅れを少しずつ改善し、話をしようという安心感を生んできているように思う。

今回は二つの遊び的労働単元を中心にして指導してきたが、毎日の生活のあらゆる面でまだまだ励ましや援助が必要だと感じられる。また、家庭の協力も得て学校と家庭とが同じ課題に向かって同一歩調で歩んでいくことは、K子の指導にとって何よりも効果があり、今後も継続していかなければならないと思っている。更に、今後は呼吸や発声の訓練、構音器官の訓練など養訓的な訓練も無理なく心理的な圧迫なく生活の中に折り込んでいくことができたらと感じている。

10月、K子はサッカーチームのキャプテンになり、大きな声で友だちを整列させている。